



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 S 34.6.9

承認 S 34.6.27

例会場	鶴岡市馬場町	物産館3階ホール
例会日	毎週火曜日	12:30 - 13:30
事務所	鶴岡市馬場町	商工会議所内
		電話 0235 225775

会長	三井	健助
幹事	山口	篤之郎
会報委員	新田	光一
	鷲田	幸雄
	安藤	定助
	嶺岸	光吉

No., 984

1978.11.28 (火) (雨) No.21

ウィンター紹介

旅河正美君	弁護士	藤沢R.C	
菅原鉄三郎君	雑貨小売	本間留芳君	食料品小売 温海R.C
三浦正志君	自動車車検	原田行雄君	遠洋漁業
半田勇三郎君	生命保険	羽根田正吉君	建設 鶴岡西R.C
八幡慶二君	建築		

会長・幹事報告

三井 健君

1. 庄内分区代理五十嵐正覚君よりI.C.G.F参加の礼状が参りました。

各ロータリークラブ

会長・幹事殿

謹啓 晩秋の候貴クラブ益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、去る19日に開催されました1978~79年度庄内地区インターンティ・ゼネ

REACH OUT...

手をさし伸べよう...

ラル・フォーラムに際しましては、貴クラブより多数会員のご参加を得、又熱心にご討議、ご意見発表を賜わり、お蔭様をもちまして有意義なフォーラムを滞りなく終了することが出来ました。

これ偏えに貴クラブ初め、参加クラブロータリアンのご指導の賜ものと存じ、謹んで友情に感謝の意を表する次第でございます。

まずは取急ぎ書中をもちましてお礼申し上げます。

国際ロータリー第253地区

庄内分区代理 五十嵐 正 寛

2. 台中港区扶輪社会長楊聯郷君並びに国際奉仕委員長陳克己君より、当R.C創立20周年記念式の招待に対する次のような礼状が参りました。

拝啓 雪国の鶴岡では既に初冬の候かと存じますが、三井会長初め会員の皆様には益々御健勝の事とお慶び申し上げます。こちら台湾は未だ天高く馬肥ゆるの秋、当クラブも楊聯郷社長初め社友一同つつがなく元気で活動致して居ります。偕て貴クラブに於かれましては、来年の4月22日に創立20周年を迎えられる由、誠に慶ばしい事でございます。盛大なる慶祝記念式典を挙げられる御予定で、丁寧な御招待の御書信を戴き、誠に光栄かつ有難く感謝致す次第でございます。今年3月統盟の為に上野前会長初め多くの方々がお越下され、お互いの友誼を高められた事は、当社一同今でも大変感謝致して居ります。貴クラブの盛大なる慶祝式典には是非とも参加致し、お慶びを申し上げたいと計画をめぐらしていました。

昨日の理事会で正式に表敬訪問団の結成を決議、例会に凶りました処、全員一致の賛成を得ました。早速楊社長を団長に団員の募集やスケジュールの作成に取り掛かる事になりました。団員の人数や其他に就きましては後日改めて御連絡申し上げます。

本日は取り敢えずこの事に就きまして御報告旁々御連絡申し上げます。尚小生陳克己、昨年度国際服務主委を勤め、貴クラブの嶺岸さんには色々御世話と御迷惑をお掛け致した者ですが、本年度も引き続き国際服務主委を勤めさせて戴いて居ります。貴クラブの国際親睦委員長の方と今後とも御連絡致し度いと思っておりますので宜敷くお願いします。

三井会長初め会員の皆様御健康と貴クラブの益々の御発展を心から祈念致します。

1978年11月22日

台湾・台中港区扶輪社

社 長 楊 聯 郷 敬 上
国際主委 陳 克 己

三井健会長殿

3. 之より総会に切替えて次年度役員選出についてお諮りします。

4. 総 会

選出方法について諮り、選衡委員を立てて選衡することになり、その人選は会長に一任され、会長は次の通り指名し決定した。

鈴木善作君、佐藤忠君、鈴木弥一郎君、上野三郎君、小松広穂君、三井健君。

1. 会報到着 村山R.C

山口篤之助君

今日は何か経済の話をしるとのご用命でございますのですが、限られた時間ですので簡単に景気の概況と先行の見通しについて、サワリだけを申し上げてみたいと思います。

まず国内の概況ですが石油ショック後3年間続いていた、大不況も一応昨年秋に底を打って、去年の11月頃からゆるやかな上昇過程に入っております。その原因は何かと申しますと、主役は公共投資であります。政府が昨年来、景気回復の錦の御旗として実行して来ているものであります。そこで、一般公共事業費をみますと、3年度の場合34.5%も伸ばしております。

然しこんな高い伸び率も続けて行ける筈はありません。その理由の一つは、こんな高い伸び率を続けて行けば我が国の公共投資は3年を待たずに倍増してしまいます。こんなことが現実には実行不可能であります。今でさえ一部消化不良を起しかねない状態にいるわけですから……。それにもう一つは公共投資の財源です。これは建設国債で賄っておりますが、市中の消化能力を超えて国債を発行することは不可能であります。現に金融緩和が続いている状況のもとで、7～8月には国債が売れ残るといふ現象が現れました。

これは明らかに金融マーケットが拒否反応を示しはじめた現象で、先行に対する不安感が高まったと云える事と思います。今年は大体11兆の国債を出します。来年度は13兆ぐらいの国債を出さざるを得なくなります。今年の国債依存度は37%で、来年は福田さんは40%位になるといっております。この調子で行きますと昭和55年度末には発行残高が70兆円をオーバーしてしまいます。

国債発行といえますと、何かひとごとのように思っただけで皆さん“あっしにはかわり合いござんせん”とお考えのようですが、国の借金は、即ち国民一人一人の借金ですから、何時か、増税という“つけ”が国民に回って来ます。亦こんな多額の借金になりますと利息の支払いに迫られて、いわゆる“サラ金財政”となってしまう、利払いのために国債を発行するという。いわゆる財政硬直化が生じてまいります。従って23日の新聞にも松沢全国銀行協会会長は、“来年度の金融機関の“国債引受は今年度並みが限度”と発言しております。

又金融勢勢が変化しますと＝言いかえますと金利が上昇過程に入りますと＝国債価格の大暴落も起しかねないという懸念もあります。大口の国債保有者である金融機関自身がそういう不安感をもっております。したがって大蔵省の指導で今年の9月期から統一経理基準が改正になり、銀行は期中に増加した国債の千分の二十を国債価格変動準備金として有税で積み立てることを義務づけられている有様です。

また先程も申しましたように工事の消化能力からみても、34.5%増というのは恐らく限界とみてよいでしょう。実額で申しますと国と自治体が行うすべての公共事業費を合計すると25兆6,000億円となり、今度の補正予算で事業規模にして2兆5,000億を追加すると28兆円という、膨大な金が日本列島につき込まれるわけです。しかも前倒し政策をとっているので、9月末の国の公共事業等契約率は76%と政府目標の73%を上回り、46年の76.6%に次いで過去2番目の高水準を保って、極めて順調に進捗しており、これが景気を押し上げる主役をはたしておるわけです。

従而、土建関係業者は手一杯の仕事をもっており、ブルドーザー、パワーショ

ペル、トラック、ダンプカー等の需要が高まっており、セメントは戦後最高の生産水準に復帰、丸棒等もトン当り39,000円位迄落ち込んでいたのが、いまは60,000円位迄回復しております。又鋳工業の生産は前月比で8月は1.2%増、9月は1.1%増、10月が2.3%、11月が0.7%と増加し、出荷も同様に増加、鋳工業の生産者在庫は9月で連続5ヶ月減少、前年同期比では4.2%の減少しております。これは公共投資の波及効果が逐次現れて来たということが言えると思います。

それから緩慢乍らも景気回復の一助となっているのは個人消費であります。今年のベース・アップは平均5.9%と低い率で決まり、これでは個人消費の回復は無理だと考えられておりましたところが、4月以降個人消費はかなり回復して来ました。

全国デパート売上前年同月比	チェーンストア
6月+8.6%	+ 6.0%
7月+7.0%	+10.7%
8月+4.6%	+ 8.3%
9月 /	+ 7.2%

6月は今年初めに比べれば倍増しております。

それに今年の夏は異常に暑かったので、これが消費を持ち上げております。例えばルーム・クーラー、冷蔵庫、扇風機がよく売れ、夏物衣料も特に婦人服、子供服が売れた外、ドリンク剤、シャンプー、リンス、ビール、清涼飲料も極めて売れ行き良好でありました。現在も温風ヒーター、自動車の新車の売れ行きも悪くありません。これは円高メリットの浸透により卸売物価は前年同期に比べマイナスであり、消費者物価も安定していることによって勤労者の実質可処分所得が順調に伸びて来ていることにもよります。9月の現金給与総額は180,624円、前年同月比+7.5%、実質賃金指数の前年同月比では+3.7%増と9ヶ月連続で増加しております。これは現金給与総額が前年同月比で今申し上げた通り7.5%の増加となった一方、9月の消費者物価が前年同月比3.7%となり、漸く銀行の定期預金の利息以下に定着し誠に安定した姿となったわけです。

しかもご承知の通り円高は依然続いております。このために輸入依存度の高い我国では卸売物価が前年水準を大きく割り込んでおります。

卸売物価 前年同月比	輸入物価 前年同月比
53年8月 -3.6%	53年7月 -20.1%
	8月 -23.8%
9月 -3.7%	9月 -22.8%

こうなっておりますと消費者物価を押し上げる力は誠に弱く、当分物価は安定していくものと考えて差しつかえないと思います。

これは日本ばかりでなく国際収支、黒字国はすべて物価が安定しております。

参考までに各国の数字を申し上げますと、

1978年9月 上昇率% 前年同月比		西独	スイス	日本	米	英	伊
消費者物価	2.2	1.1	3.7	8.3	7.3	11.7	
卸売物価	1.3	?	△3.7	8.7	7.7	8.4	

西ドイツ、スイスは安定しております。反面赤字国はみんなインフレに悩んでおります。今後共国際収支が黒字で物価が安定した状態が続けば、引き続き低金利政策が続いて行くものと思われまます。これは私共銀行にとっては誠に有難くないこ

とですが、皆様産業界にとっては誠に都合のよいことと言えます。
次に円高の問題について若干申し上げてみたいと思います。

昨年 8 月末 1 弗 267.30 銭が今年の 8 月末は 190.00

通貨	日本円
単位	1ドル当り
スミソニアンレート	308.00
76年年間上下幅	12.30
77年年間上下幅	52.50
77年 8月末	267.30
78年 1月末	241.74
2月末	238.83
3月末	223.40
4月末	223.90
5月末	223.15
6月末	204.50
7月末	190.80
8月末	190.00
6月末	189.15
10月末	176.05
11月9日	186.70

丁度であり、10月末にはついに180円の大台を割り込み176.05銭と異常な高値をつけたわけであります。

然らばどうしてこう円高が続いて来たのであろうかと考えてみますと、一つにはアメリカのドル防衛対策が今迄あまり期待出来なかったということであります。今迄小出しにチョコチョコと出して来た対策が全部裏目、裏目にと出てドル安を誘発して来たことが一つです。

それともう一つ重要なことは、日米双方の国際収支、特に経常収支（貿易収支が主体—経常のほかには資本収支がある—）をみますと、昨年にくらべて両国の経常収支のギャップが縮小する見通しがないことであります。

52年度の経常収支を見ますと、日本が140億ドルの黒字を出したのに対して、アメリカは153億ドルの赤字を出しております。53年度の日本の経常収支の黒字約2兆7000億、ドル換算で約130億ドルになると予想されております。ところがこの予想は年度内に40億ドルの緊急輸入をすることが計算に入っております。もしこれが出来ないとすれば170億ドル位の黒字になってしまう反面、アメリカは160～180億ドル位の赤字になってしまうことになります。

さすがのOPEC諸国もたび重なるインフレで国際収支はせばまって来ております。世界最大の黒字国サウジアラビアの今年度の黒字は190億ドル位と予測されてお

りますが、日本とそう違わないということであれば円に対する圧力はますます強まって来ると考えられるのは当然であります。

そこでまあいくら日本や西独、スイスで頑張っても、ご本尊のアメリカがなにもしなければ如何しようもないという非難も高くなって来たし、アメリカ自身ドル安から来るインフレ傾向を放置出来ない段階に来たということで、11月1日に米国も今度は思い切った措置に踏切った。即ち為替相場の協調的介入と公定歩合年初末7回目の引上げを行い9.5%とし、預金準備率の引上げ等強力な金融引締策をとり、又財政面でも本年度連邦予算の赤字が600億ドルといわれていたのを、400億ドルに抑え、更に来年度は300億ドルへと、他国に例を見ない急速な削減方針が打ち出され、既に実行に移されております。

従来の米国の政策目標は、完全雇用とインフレ抑制のいわば二兎を追うという感じから、このところインフレ抑制、防遏が最優先ということに絞られてきている感じで、これ等の措置が物価面で好影響をもたらすであろうことが期待されるとともに、為替介入の強化と相俟って為替市場も今月に入り190円台迄もどし、一応安定して来ているというのが現状であります。然し190円といえば7月末のベースで今年の1月末に比べれば50円の円高であり、200円の割れには違いないので輸出業者にはかなりのダメージであることにはちがひありません。

輸出が数量ベースで減少したのは4月頃からで、金額ベースでも7月頃から減り出して来ています。8月の通関統計でみますと円の手取ベース前年比11.8%の落ち込みとなっており、品目別で見ると前年比合板-89.8%、履物-47.2%船舶-38.7%、繊維製品-26.0%、以上これからは構造不況業種で後進国の追い上げによるもので円高以前の問題といえるかもしれません。

尚、その他でテレビ-20.2%、鉄鋼-18.0%、おもちゃ-15.6%、オートバイ-12.1%、ミシン-6.1%、乗用車-3.7%となっており、減少しないのは電卓オーディオ製品、カメラ、デジタル時計等となっております。

円高による輸出の落ち込みが表面化してくるのは、これから来年にかけてであります。景気上昇の一翼をになっていた輸出がスローダウンして来ると、いささか心配せざるを得ません。中共貿易もご承知の通りお家の事情で多くは期待することが出来ないと思います。

投機に回る過剰ドルは5,000億ドルとも6,000億ドルともいわれておる点もあり、いつなごとき又暴れ出すかも知れません。こう考えて来ると、いささか悲観的となりますが、最初から申し上げているように引続き公共投資には力を入れるし、個人消費もまずまずと言えます。諸々の指標もゆるやかに良化しております。アメリカもいよいよ本気になってインフレ対策に取組んでおります。

又企業収益も減量経営によって収益が出始めた企業もかなり出てまいりました点から考えてみましても不確実の時代ですから先のことは不透明ですが7%の成長は無理としても、福田から大平に移っても引続き5%程度の成長持続は可能ではなからうかと思われませんが、私共企業はやはりガードを固め減量と効率化経営を押し進めて行くことが最大のポイントではなからうかと痛感しております。ご清聴有難うございました。

委員会報告

親睦活動委員会

1. クリスマスパティーについて

期日 12月19日(火) 産業会館5階ホール
 時間 登録 午後5:00~5:30 点鐘 午後5:30(例会を行う)
 開会 午後5:40 終了 午後7:40
 登録料 会員及び家族 1名 3,500円 小中学生 1名 2,500円
 申込み〆切り12月8日
 その他 福引を計画していますので1,000円以上の品物をご寄贈下さい。

SMILE BOX

お蔭様で庄内モールテナントに開店しました。どうぞ御引立を!!

正栄堂 佐藤正郎 君 木村屋 吉野 勲 君 いちかわ 市川輝雄 君

出席報告

本出 日 の席	会 員 数	70名	欠 席 者	阿部(与)君、風間君、小松君、中野(重)君、 佐藤(伊)君、佐藤(昇)君、佐藤(友)君、佐藤 (正)君、笹原君、高橋(正)君、菅原君、金沢 君、佐藤(元)君、渡会君、高岸君、宮沢君
	出 席 数	54名		
	出 席 率	77.14%		
前出 回 の席	前回出席率	75.71%	メ ア ッ ク ブ	中江君一温海 R.C 皆川君、風間君、高橋 (耕)君、佐藤(忠)君、佐藤(友)君、内山君、 手塚君、金沢君、佐藤(元)君一鶴岡西 R.C
	修正出席数	63名		
	確定出席率	90.00%		